

開院レポート：北見赤十字病院

北海道の東部オホーツク海にほど近い北見市に位置する北見赤十字病院は、オホーツク医療圏の中核病院として昭和10年の開院以来地域住民の最後の医療の砦としての役割を果たしてきました。耐震性の問題から建て替え計画を検討していたところ、隣接する北見市役所の土地を利用して大規模な改築計画が遂行され、去る平成26年12月に新棟がオープンしました。今後既存棟の改修等を行い、平成27年度にグランドオープンする予定となっています。また、同市内に位置する道立北見病院も隣地移転の計画が進行しており、オホーツク医療圏のメディカルセンターとしての役割を担っていくこととなります。

【本計画の概要】

主たる既存5館（南館、北館、西館、東館、別館）のうち南館及び別館を残し、その他の建物を解体する計画です。また既存南棟と新棟は2層の渡り廊下で連結しました。さらに南館から公道を挟んだ南側に新たにPET棟を整備しました。

新棟には外来部門、中央診療部門、病棟部門などほとんどの部門が移転し、既存南棟は精神科及び新たに標榜する歯科口腔外科機能に改修、別館は倉庫として利用することとなります。平成27年3月現在、新棟はオープンしたものの南棟及び別館の改修を行っているところです。

＜敷地利用図＞



【本業務の概要】

■ 平成20年度：基本計画策定

医療圏の医療需要の動向及び医療政策の方向性などの外部環境調査および取扱患者数、スタッフ数、経営分析などの内部環境調査を行い、当院の将来におけるポジショニングを明確にするとともに、整備の基本方針や患者需要予測による病床数（削減）の検討を行いました。

■ 平成22～26年度：施設整備事業支援

運営計画及び医療機器整備計画に関する支援を行いました。また平成24年度からの3年間においては新本館への患者移転に伴う移転マニュアルの作成などの支援を行いました。

（運営計画）

新本館設計支援として、諸室数根拠の提示などの設計と条件の策定を行うとともに、事業費の設定支援及び事業収支計画の策定支援を行いました。また、新本館開設時に更新される医療情報システムの内容を踏まえ、旧病院での患者やスタッフの動きを確認しながら、患者フローに関する運営マニュアルを策定しました。

（医療機器整備支援）

PETをはじめとする大型医療機器から什器備品や看護備品に至る医療機器等の整備調達支援を行いました。限られた予算内での調達が必要であったため、要望された医療機器を全て調達することは不可能でした。よって、

頻繁に調達担当部署や現場スタッフとのヒアリングを行いながら、可能な限り現場の納得感を得られるよう支援を行いました。また、大型医療機器に関しては設計及び建築との調整が必要であり工事の手戻りや設備見落としがないよう工事区分の確認や総合図調整などの支援を行いました。また、調達支援として医療機器仕様の比較表策定等による医療機器選定支援、医療機器仕様書の策定による医療機器調達支援、搬入計画策定支援等を行いました。

(移転支援)

物品移転及び患者搬送支援を行いました。物品移転に関しては移転業者の選定を行うため、医療機器及び什器備品等の調査を行い、移転する物量について概要をまとめるとともに、移転業者選定仕様書等の策定支援を行いました。また、患者搬送支援においては、患者搬送マニュアルの策定支援を行うとともに、搬送患者及び搬送スタッフ体制に関するアドバイスをを行い、患者搬送スケジュール策定支援を行いました。

【新病院の特徴】

1. だれでも利用できる病院の中の街 —アトリウム—
 - ・ カフェ・コンビニ・レストランなどのアメニティ施設をアトリウム周りに配置し、街のにぎわいを病院の中に創出
 - ・ アトリウムには医療ガスアウトレットや非常電源を設け、災害時には救護活動拠点として活用
2. 医療機能の充実
 - ・ 歯科口腔科（歯科口腔センター）及び緩和ケア科（緩和ケア病棟）を新設
 - ・ がん診断機能の充実を図り PET 等の医療機器を整備
 - ・ 内視鏡による診断・治療を強化し、手術室を拡充するとともに、集中治療病棟（ICU・CCU）との連携を強化
 - ・ 総合周産期母子医療センター機能の充実を図り、関連部署との連携を強化
3. 救急医療の充実
 - ・ 救急車ごと入れる車庫型救急専用玄関を整備し、搬送時の患者負担を軽減
 - ・ ドクターヘリ、防災ヘリに対応するヘリポートを整備
 - ・ 救命救急ワークステーションと一体的運用によるドクターカーの整備
 - ・ 緊急手術等に対応する患者搬送の円滑な諸室と設備を配備
 - ・ 救命救急センターと放射線・検査等の診断部門の連携強化
 - ・ 救急専用病床（救命救急病棟）を確保し、救急患者のスムーズな受け入れ
4. 地域災害医療センター機能の充実
 - ・ 新本館は、大地震時においても医療活動の継続に支障のない免震構造を採用
 - ・ アトリウムや、多目的ホールには医療ガスや非常用発電設備を設置し、災害時のスペースとして機能



【病床数】532床（各病床数については変更する可能性があります。）

病床数内訳：一般病床490床（救命救急病床、NICU、GCU、緩和ケア、一般病棟）、精神病床40床、感染症病床2床

【標榜診療科】24科（診療科については変更する可能性があります。）

内科・総合診療科、消化器内科、腫瘍内科、神経精神科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、頭頸部・耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、ペインクリニック内科、腫瘍精神科、緩和ケア内科、病理診断科、歯科口腔科（新設予定）

以上